

今日のトピック 好調な米国のGDP成長率（2017年10-12月期速報値）

力強く拡大する米国の国内需要

ポイント1 市場予想を下回る成長率

国内最終需要は成長率が加速

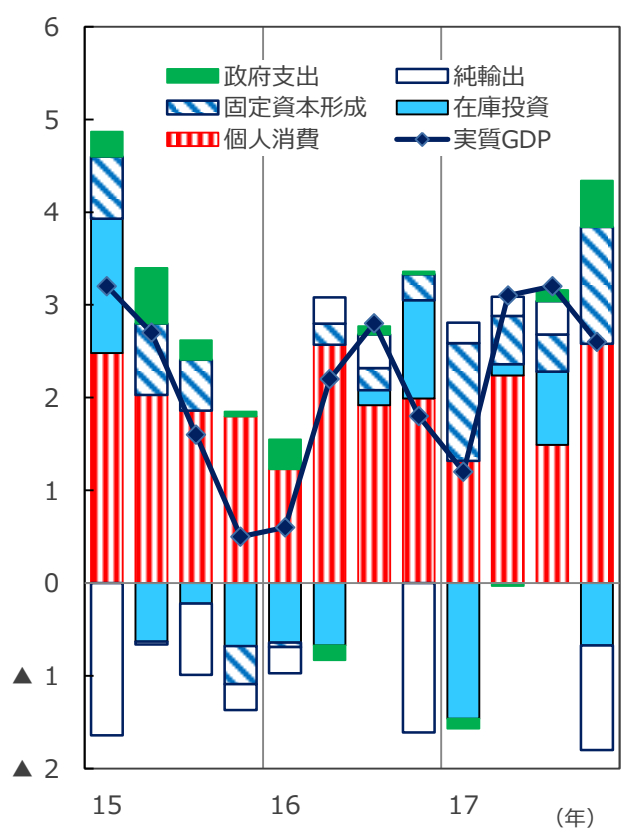
- 米国の2017年10-12月期の実質GDP成長率（速報値）は前期比年率+2.6%となりました。7-9月期の同+3.2%から鈍化し、市場予想の同+3.0%を下回りました。
- 在庫投資と純輸出が全体の足を引っ張りました。GDPから純輸出と在庫を除いた国内最終需要は前期の同+1.9%から同+4.3%に加速しました。

ポイント2 消費と設備投資は好調

在庫投資減と輸入増が足枷

- GDPの需要項目を詳細に見ると、まず個人消費は前期比年率+3.8%となり、前期の同+2.2%から加速しました。耐久財、非耐久財、サービス支出とも前期に比べ増加の勢いが強まりました。
- 設備投資は前期の同+4.7%から同+6.8%に伸び率が拡大しました。機械設備投資が前期に続き二桁の伸びとなったうえ、構築物投資も持ち直したためです。
- 一方、在庫投資、純輸出（＝輸出－輸入）の寄与度は、それぞれ▲0.67%、▲1.13%でした。ただし、純輸出のマイナス寄与は輸入増が原因であり、内需の力強い拡大を示すものです。

【米国の実質GDP成長率】



（注）データは2015年1-3月期～2017年10-12月期。実質GDPは前期比年率、その他項目は同寄与度。固定資本形成は設備投資と住宅投資の合計。
（出所）米国商務省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 低インフレのもとでの景気拡大へ、緩やかな利上げが継続されよう

- 景気・雇用が順調な拡大を続けていることから、米連邦準備制度理事会（FRB）は今後も利上げを継続する見通しです。ただし、物価上昇率が低い水準で落ち着いているため、そのペースは緩慢なものになる可能性が高いと考えられます。
- 26日の米市場では、好決算銘柄に主導され、ニューヨークダウは史上最高値を更新しました。GDP統計は市場予想を下回りましたが、個人消費をはじめとする内需の力強い拡大が評価されました。一方、国債利回りは上昇しました。

ここもチェック! 2018年1月23日 米国株式市場の見通し（2018年1月） 2018年1月22日 パウエル次期議長のもとでの『FRBの体制』は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。